

つて見ること出来る。(一)は機械的習慣、(二)精神的習慣、(三)學科目に對する習慣、この習慣がよくついでかどうかを見るのが主眼であると思ふ。教育では實業の能率などゝは達つて分量が澤山出來るといふやうな事ではない。一教育の結果として生徒の性質がよくなつたといふことに着目しなければならぬ。この方針によつて能率を試験するやうにすること教師にも生徒にも「勵み」が出て來ます／＼進歩するやうになる事である」と論して居ります。この詳細は別に申上げやうと存じます。

以上はクラッパー氏の所論の大要であります。只今中村先生(別項參照)の御話を伺つて、或は私の御伺ひちがひがあるかもしませんが丁度クラッパー氏の著眼して居られるやうな教育を實際にお行ひになつてゐるやうな感じがいたしましてまことにありがたく、うれしく存じたので御ざいます。私共は今日伺ひました中村先生の御話しやこのクラッパー氏の論など考へ合はせましてどうか將來我國教育のエフィセンシーを高めるやうにつどめたいと存じます。(完)

### 區 中 梅 叢 (茗艷廿勝小記)

梅在廟背者。參差希疎。在講堂之庭者。整列幾行。柯條櫻戾。

根幹佶屈。皆非凡種。月下美人。雪中高士。任才人所品。

疎影橫斜之態。暗香浮動之况。能吐句超乘古人。

(鹽 谷 容 陰)

### 談

#### 叢

#### 教育の根本問題

文學士 中 村 春 一

□將來大切な仕事に從事される諸姉の前に、自分の考を述ぶる機會を與へられた事を深く感謝する。言ひ度い事は澤山ある、双方差支なくば二日でも三日でも話しぶり。併しそれでは聞く方で迷惑であらうから、今日は一時間位の豫定で末の問題でなしに最も大切と思はれる點について二三述べて見やう。

□先日或る會——日本の体育を進めるについて研究する——の席上で、或る醫學専門の人の話に「どうも近頃の學校衛生は不十分でいけない、個人の健康に注意を支へる事がない、個人の衛生に注意する事は學校衛生上に大に必要な事であるが、費用が不足の爲に出來ないのである。費用が十分ある様にしてもらひ度い。又、結核にも傳染病と同様に注意する事が肝要である。又、外國人は老若男女を問はずよく運動するが、日本人はまだほんの一部分に過ぎない國民全体の運動をもつと盛にし度い、是れには駄く

らなごがよい、全國のレコードを作つて競争的にしたならよからうと思ふ。又、剣道や柔道を盛んにする事もよい、併し是はその方法について大いに改良しなければならぬ、第一白米よりは麥の方が遙かによい、とか帽子は被らない方がよろしい。と云ふ様なすべて日本國民の体力増進に有益な事が澤山あつた、之等とても勿論大切な事には相違ないが、併し之は末の事であつてもつと肝要な事かあると思ふ。

□自分は其時も言つた、たゞへば歩く事は身体の爲めによい事であるが、心配などしながら歩くのは必らずしもよいとは言はれない。平生は半里や一里、平氣で歩ける人でも子供などゝ一所に歩くと、たゞへそれが散歩であつても五六町ですつかり疲れてしまふ。之はそら自働車か來るこちらへよけよ、それそこは道が悪い着物を汚すな、馬か來る、電車があぶない、と云ふ様に萬事に氣を配つて餘計に精神を使ふからである。又、柔道にせよ劍道にせよ勝たうと思つてすると却つて十分には出來ない。もと自分が

大學に居た時不忍池のまはりを十二回めぐるかけくらがあった。その時文科の三年からは一人も出なかつた。自分もその時見物に行つて居たが、ほかの科の者が、いつたい文科の三年はいくぢかないのだ。今日だつてだれも出られる様なものが居ないんだらうとかなんとかしきりに悪口をついて冷笑して居るのか耳に入る。自分は思はずむつとした。そして腹立ちまきれに意地になつて、なんの出来ない事があるものか乃公がやつて見せるつて云つた氣で、口惜しまぎれに無茶苦茶にはしつた。しかしあの池のめぐりをはるのはひとまはりでもなか／＼大抵ではない。實際うそと思ふならやつて見ればわかる。自分もはじめは腹立ちまぎれの意地になつて走しつたがおしまひにはいからんとも苦しくなつて來た。で、うしろを見るごたいていの者はすつとあとに居る。が殘念な事には五六間前に一人はしつて居るのがある。口惜しいなあ、どうかして彼奴に勝つてくれ様と思つて、また、一生懸命な力を出してはしつた。越さう越さうと思つて走しつては前を見る。併しだめだ二人の間には依然として間隔がある。そこで自分は

考へた。あゝ、これや間違つて居た。勝うなどゝ思つて居てはやくはしれ様筈がない。と氣がついてからはたゞ足もとを見つめて一心にはしつた。何事をも忘れてたゞはしつた。とふしぎなものでいつかしら前にはしつて居た者をも越して見事に勝つて居た何事によらずすべてかうだ。勝たうと思つてするど氣が散る、徒然草にも「かたんとてうつべからず、まけじどうつべきなり」、といつて居る。つまり勝つ方にばかり氣を向けて肝心の運動が出來ないのである。すべて精神と身体とが十分調和される様にしないと害はあつても益はすくない。日本の体育の欠陥はこゝに基づくのではあるまい。

□たゞに体育の方面ばかりでなく、廣く教育の上に於てもかう云ふ事はあるまいか、根本に氣が付かず未にばかりあせつて居るために、結局十分の効果を擧げる事が出來ない。この様な事ではまことに氣つかはしい、その根本問題について三方面から述べて見たいと思ふ。

### 第一、生徒に自發自奮の精神を與へる事について

實際教育上十分に意を用ひられて居るかどう

### 第二、教師の教育に關する意氣込は十分であるか否か。

### 第三、生徒の精神状態について研究が十分出來てゐるか否か。

□教育者は被教育者に、磁石、鏽、鏽紙、金剛砂の様な物を磨く材料を與へ、かつ磨く方法を知らしめるものである。併し磨く事は彼等自らにさせなければ眞の効果を擧げる事は出來ない、此の點から言つて成績の悪い生徒に家庭教師をつける様など、學校から家庭に要求するのは大なる誤である、はたから手傳つてしたのでは價値がない、自分から立派なものを作り出さうと努力する様に導いてやらなければならぬ。今の教育はその方法的方面に於ては實に微細な點にわたつて研究されて居るが、此方面には餘り注意され或はつとめられて居らぬ。とにかく此事は非常にむづかしい事である。での自分では出來さす様にすると云ふのに二つの場合がある。一、何か特別な事件が動機となり原因となつた場合たゞへば親が死んだとか、又は何か非常に殘念に思

ふとか云ふに場合發奮する様な時である。併し之は異例であつて教育上眼中に置くに足らぬ。二、常に生徒が自ら努力する様に教師が導くべく意を用ふること。其の成績の如何にかゝはらず、たゞへ不出であつてもそれにそゝがれた努力に價値を認め、かつ常に自ら眞の努力をする様に導く事である。單に結果にのみ重きを置くと、却つて種々の弊害を釀すたゞへば意志の弱い生徒だと遂には自暴自棄に陥る結果を求むるの餘り遂には不正な行爲をまでする様にもなるであらう。其の成績の良否は第二の問題として、先づ生徒自らの眞の努力に價値を認める時は、自然彼等をして自らのベストを盡さす事が出來たが、後の隅の方の生徒はすでにかなり出來上つて居る、しかもなか／＼手際がいい、先生はしばらくそのかたはらに立つて、小器用に動く手もとを笑ましげに見守つて居たがやがて、御前は相變らずうまいなあ、としきりに賞めて居た。教室の前の

方に居た一人の生徒はさつきから、一人こつゝと一心になつてやつて居るがなかくうまく出来ないと先生はやがてそこへやつて来て、しばらくながめて居たがふつと悔蔑の色を浮べて、しかも腹立たしげに、御前はまた相變らずまづい人だなあ、どこやどをいつて居た。其の時自分は心中ひそかにこの二人の生徒を比較して見た、なるほど兩人の出来は單に成績の上から比較して見れば非常にちがひがあるしかし前の賞められた方の生徒を見るのに、どうもその態度にあき足らぬ所がある。何となしにふはふはとした軽跳な所があつて、する事も餘り眞面目にはやつて居ないらしい、其の比較的勝れた成績は單に彼が生來小器用な手先をもつて居る事の賜であるに過ぎない。然るに先生から嘲笑的のこゝとを言はれた生徒は、實際餘りに上手であるとは言はれない、しかしその不器用な手先に、どうかして立派なものを作りあげ度いと努力して居る、その熱心さは手先にも顔にも十分あらはれて居る、これを前の生徒に比較して見ると、その眞面目さ熱心さに於て非常なちがひがある。その成績の如何はとにかく、眞面目

な努力にこそ價値の認むべきものがある、この後の方の生徒は成績こそ前の生徒に劣つて居れ、品性に於ては遙かに前者に勝れて居る、この兩者が他日社會に立つて實際生活を營むにあたつて、果してそのいづれが成功するか、恐らく最後の勝利は後者にあると云ふ事が出来るであらう。實際教育上教師は此の點に大いに意を致して、生徒をして眞面目な態度を以て眞の努力をなす様に指導する事が肝要である今の教育界に於て前に述べた様な教師は取て一人ばかりではあるまいと思ふ。

□生徒の自發自奮の精神を養ひ十分發達さす爲には先づ教育者に熱心な意氣込がなくてはならぬ。生徒は物品でない、生きた人間であるから教育者も從つて精神をこめてする事が必要である、たゞ口先ばかりでいい、かげんな事をして居ては決して出来るものではない、一體今の教育者には生徒をどうかするとの物品視して居る人かかる様であるがそれは非常な誤である、生徒は生きた人間である、しかもこれから作り上げらるべき未成品である、して見れば一步その方法を誤まつたらその結果は非常に恐しい事にな

る。それ故非常な熱心と意氣込とを以て、本氣に努力しなければとても眞の効果を擧げる事は出來ないいゝくるゐな事で出来るものではない。從來の教育は稍々ともすれば優等生の方が却て常に教師の親切同情の露に浴して、劣等生は一向かへりみられずにお過ぎ勝であった、これは非常な誤である、劣等であればある丈教師は親切丁寧に教へ導き、出来る丈努力してその向上啓發に努めねばならぬ、しかし實際そういう場合は非常な努力と忍耐とがなければ容易に出来るものではない、がそれか教育者の任の輕からぬ所以であり、教育の必要なる所以である、もし出來の悪い生徒があつた場合に教師は自ら全力をつくしてつとめる事を忘れて、唯だ外の生徒の邪魔になるからとか教授の邪魔だからと云ふ様な事で、無暗に落第させたりする事は不眞面目の至りと云ふべきである、一度教育者となつた以上は獻身的に眞の努力を致さねばならぬ、かうしてこそはじめて教育者としての意義は生ずるのである。

□實際教育を施すにあたつて、教育者はたゞその時機、設備、教授法、教材などの方面について研究する

ばかりでなく、生徒自身の状態についても十分研究する事が大切である。然るに今日の教育者は此の方面に對して果してどれ丈の力を盡して居るか、實際今日の教育者は多く此の點については餘り意を致して居らぬ。たゞ教師の方から生徒に教へる注ぎこむと云ふ方面にのみ心を用ひて居る、併し生徒は各々個性を持つて居る故、悉くがそれを受け入れるかどうかは頗る疑問である。此の點に於て教師は生徒の個性について研究する事が必要である。なほ生徒は時と場合によつてその精神状態に非常な變化があるそれは多く外界の刺戟に因る、ことに都會の生徒は外界の刺戟を受ける事が多い故、教師はたゞ口先の注意を與へると云ふ位の不徹底な事でなく、教師自身が模範となつて生徒をして自分に精神を集中せしむる事によつて外界の刺戟にうち勝つ様にせしめなければならぬ。言ひ換へれば出来る丈その刺戟を取り除き、自己の模範なり訓戒なりを十分に徹底せしめなければならぬ。それにはたゞに教師自身がつさめる丈でなく、生徒をして其を受け入れ得る状態にあらしむる事が必要である。つまり教師は實際教育

を施すにあたつて、常に一方その方法について研究すると共に、他方に於ては生徒の個性及び精神状態の如何を研究して、十分徹底せしむる事につとむると共に、徹底せしめ得る状態の下に置く事か肝要である。

□なほ終りに今日の社會に於て教育者としての女子の立場について一言し度いと思ふ。教育者としての女子の立場は男子に比して決して狭いものではない物事に表と裏とがある様に、概して男子は積極的であり女子は消極的である。女子にはどこまでも綿密な注意柔しい同情が必要である。實際教育をするにあたつても、男子が暴くはげます様に仕向けるに對して女子はやさしくかばふ様にする事が肝要であるかうして男女相俟つてはじめて完全なる効果を擧げる事が出来る。

□女子はその特性の關係から餘計に氣をつかふ、併し精神の使ひ分けをする事は非常に大切である。つまりぬ感情の問題などに精神をつかふ事なしにその目的に向つて全力を盡す事が肝要である。些細な事に無暗に氣をつかふ事は經濟上の大歎點である。教

育者である以上は教育に向つて一身を堵し全力を盡してはじめて徹底的にその目的を遂げる事が出来る。

□今や我國の社會に於ては、國民思想の動機などゝ言つて非常にやかましい問題になつて居る、そしてその原因は明かである。しかもその救濟者は教育者に俟つ外はないのである。眞の教育者即その目的とする所を理解し、それに向つて獻身的の努力をなされたられる諸姉は大いに務める所があつて欲しいことに前に言つた様に教育界に於ける女子の立場は決して狭いものでなくむしろ非常に廣大なものである故、此の點に對して大いに自覺し十分なる効果を擧げらるゝ様に努力せられん事を希望する。

(第三十一回文科学術談話會講演筆記)

### 批評（第十號）

S.

S.

□淺黃色の空の果が美しくかんですつかり春の様な

氣持のするある日の午後二人は賑かな電車通を少し横へは入つたところにS.S先生を訪ねて二階の應接室で、前號の批評を伺つて來た。

□全体の編輯の上より見てカットの使ひ方にいかにも田舎々々した所がある。これは活版屋が氣がきかないといふ事もあらうが一層編輯する人にも注意して貰ひたい。

□みだしの段をかへる事にも注意して欲しい。又句讀のうち方がすい分めちやくであると思ふ。これがよほど全体の編輯の上に關係して來ると思ふ。

□内容については今批評する事は出來ないが歌だけはすつかり讀んで見た。一体に若々しい氣分のある事をうれしく思つた。「よくぞわれ……」等の歌殊に女らしくてよろし。この人の歌にはいかにも愉快さうな氣分があらはれて居ると思ふ。それから寂しいとか悲しいとか言ふ氣分、これはこの時代の人の心に必ずあることであるのだから、この氣分のある歌だつて悪いとは決して言はれない。もう一つ歌についていへば何でもかんでも目にふれるものを歌にするといふこともよい事ではあるが又何と言つてよい

か——コンセントレーントする事——つまり滴々としひて滴る様な所をつまみ出す事が必要だと思ふ。餘りこれに囚はれると手も足も出なくなるからその程度は難しいがとに角今の人はこの點が少し缺けて居はないだらうか。  
それから、歌は説明して終つてはつまらなくなる。たゞへば「清らけき水にひたれる我が髪のひと筋ごとに光るめでたさ」光る。迄で澤山である。めでたさは餘計なものだと思ふ。歌については此位である。

□それからついでにたゞ自分一個の考として述べるが、この雑誌にはなるべく歌とかその他純文學のものを避けた方がよいのではないだらうか。これは少し極端な様であるが、自分はその作者を重んじて言ふのである。とに角學術談話會の雑誌としてもつと／＼報告的なものにして終つた方がよいと思ふ。つまり實用的の雑誌にしたいのである。そして必要があればもう一つ文藝の雑誌を出すか、そうでなければそれらの作者達に適當な機關を與へてやる事にすればよいと思ふ。がこれはたゞ自分一個の考にすぎないのである。